コリント
第二
⑦

# 「喜ばしい悲しみ」

コリント人への手紙Ⅱ　7章　の

Shikaoichurch.com

# アウトライン

０．イントロダクション

Ⅰ．　深められる確信　　1～4節

Ⅱ．　信仰者の悲しみと慰め　　5～9節

Ⅲ．　救いに至る悔い改め　　10～16節

Ⅳ．　まとめと適用

悲しむべきを悲しもう

聖化の道を歩むために

# コリントの手紙第二とは？

■著者　…使徒パウロ。

■年代　…第一(55年)の2年後、57年頃。

■執筆場所　…コリントへの途上、ピリピ。

■対象　…コリントのキリスト者たち
(離散のユダヤ人と異邦人)

■目的　…アフターケア。献金の促し。
非難への弁明。再訪問の備え。

# パウロのコリント訪問

❶最初の訪問(第二次旅行)・1年半滞在　50年

❷エペソ滞在中(第三次旅行)　手紙Ａを送付
**第一の手紙**を送付　54～55年

❸二度目の訪問(Ⅱコリ13:2)　55年
手紙Ｂ(悲しみの手紙)を送付

**7章で触れている**

❹コリントへの途上で(ピリピ？)
テトスと合い、現状を聞く
**第二の手紙**を送付　55～56年

❺三度目の訪問　55～56年

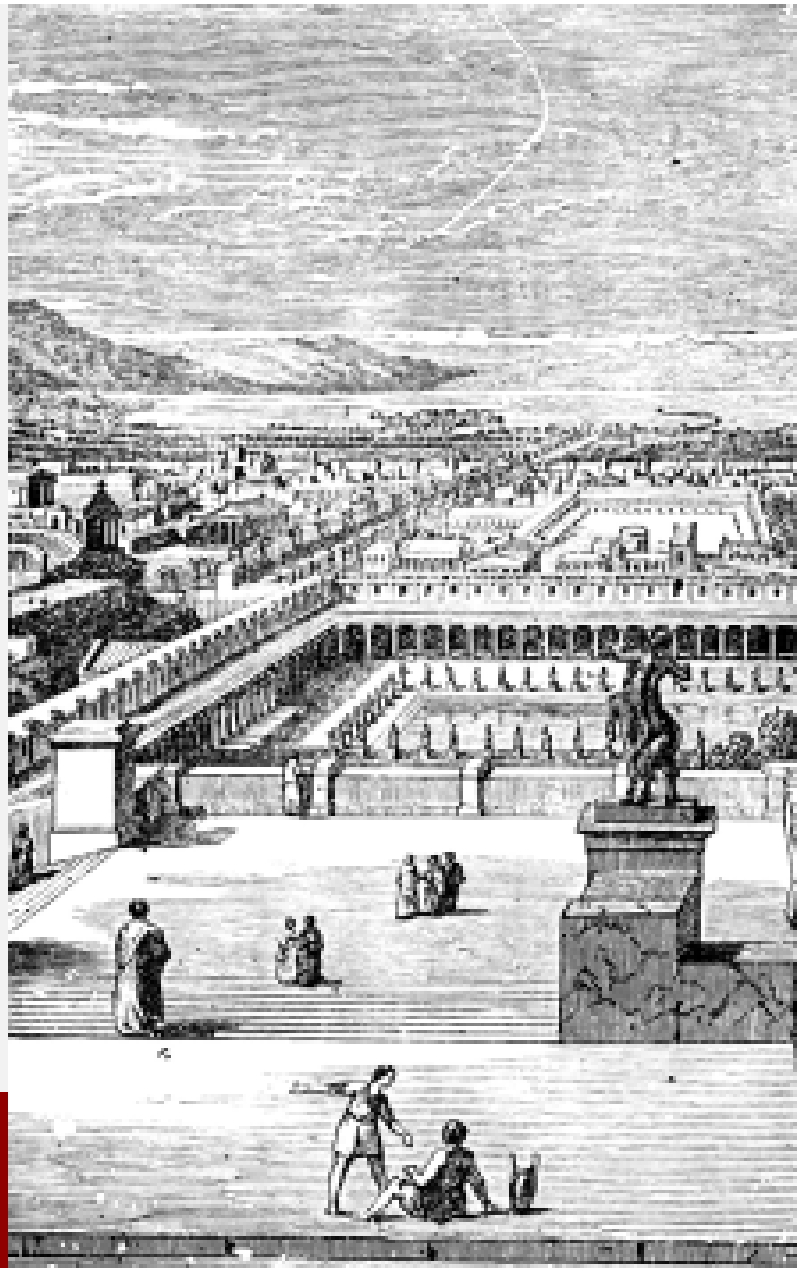
## 【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都
  国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
  かなりの規模の**ユダヤ人共同体**も存在。

- **不道徳**の町。少年への性愛、複数の愛人。
  神殿娼婦の存在。**偶像崇拝**が蔓延。

- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。
  基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

**第一の手紙の後に変化はあったのか？**

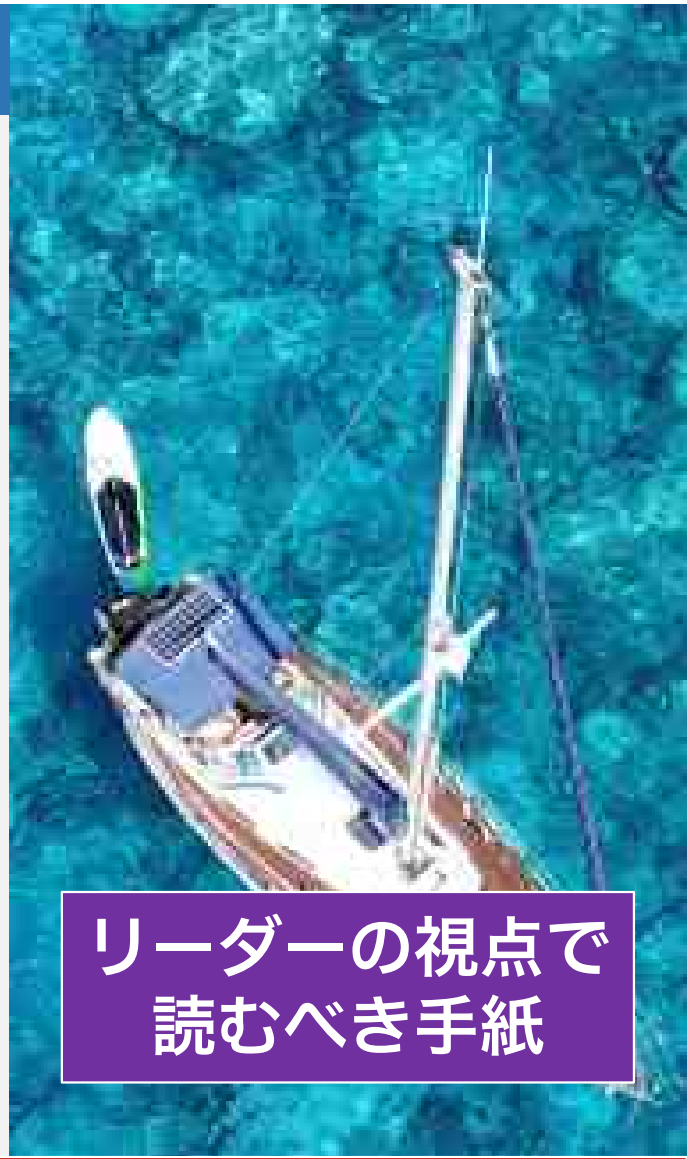


# 第二の手紙の特徴・テーマ

■第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。

■変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
❶グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
❷残念なニュース…献金が集まっていない
❸バッドニュース…パウロの使徒性への疑い

■**伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。
さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。
➡**感情**が強く表れた手紙になっている。




**パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう**

# Ⅰ． 深められる確信　Ⅱコリント7章1～4節

## 【聖化の道】 Ⅱコリ7:1

愛する者たち。このような約束*を与えられているのですから、肉と霊の一切の汚れから自分をきよめ、神を恐れつつ聖さを全うしよう*ではありませんか。

＊神の民、神の子とされる約束(前節)。

＊聖化の道を歩み通すこと。

■パウロが常に促すのは、聖化の歩み。
主に信頼し、打ち砕かれ、変えられていく。
救いの確信は、現在進行形で深められる。

**変化を拒み、とどまり続けている人は、本当に救われているかどうかも、分からない**

## 【誠意ある呼びかけ】 II コリ7:2

私たちに対して心を開いてください。私たちはだれにも❶不正をしたことがなく、だれも❷滅ぼしたことがなく、だれからも❸だまし取ったことがありません。

＊偽善者、偽教師の特徴

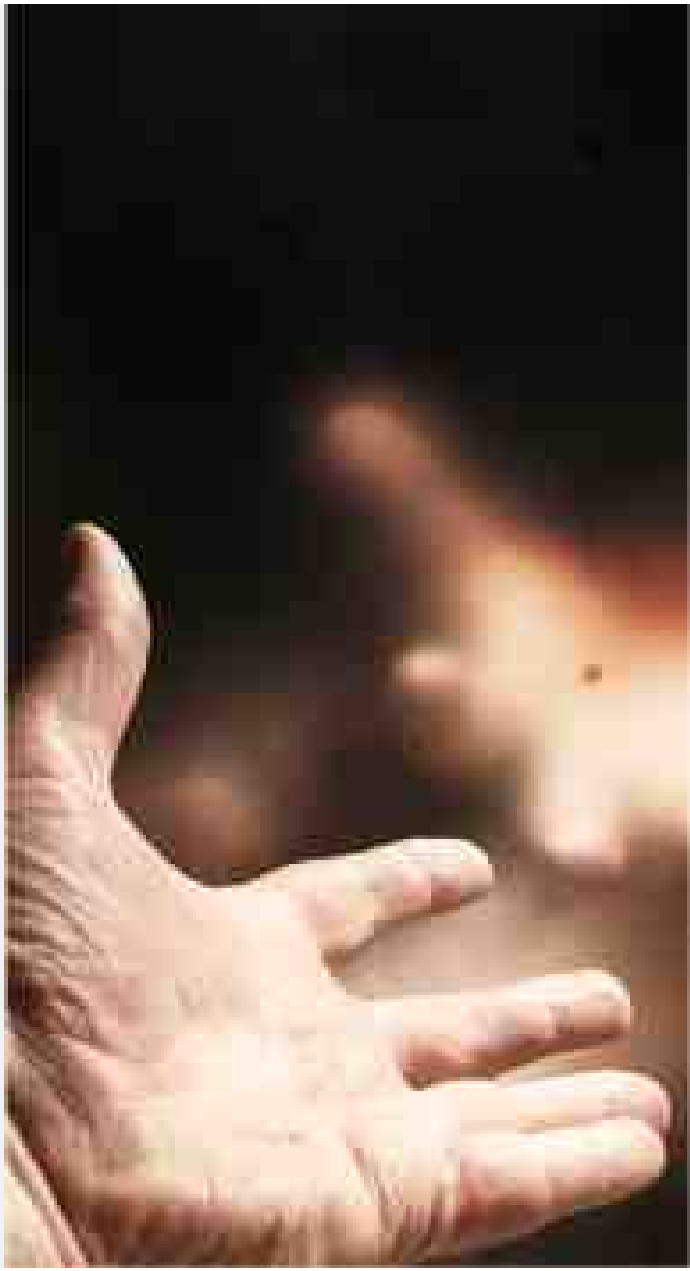
■主の教えを歪める、偽りの信仰者は、

❶神の正義をねじ曲げ、自分の義を通し、

❷偽りを告げて人を滅びに導き、

❸人をだまして地上の利益を得ている。

（富、他者の評価、支配・コントロール）



## 【キリストの体のうちに】 II コリ7:3

私はあなたがたを責めるために言っているのではありません。前にも言ったように*、あなたがたは、**私たち**とともに死に、ともに生きるために*、**私たち**の心のうちにある*のです。

＊不明。残されていない手紙か？

＊主イエスが死に、ともに生きておられる。

➡これを土台として、信者も同様に歩む。

＊**私たち**は、キリストの心の内にある。

**キリストの体**である兄弟姉妹の内にある。

## 【確信と誇り】 Ⅱコリ7:4

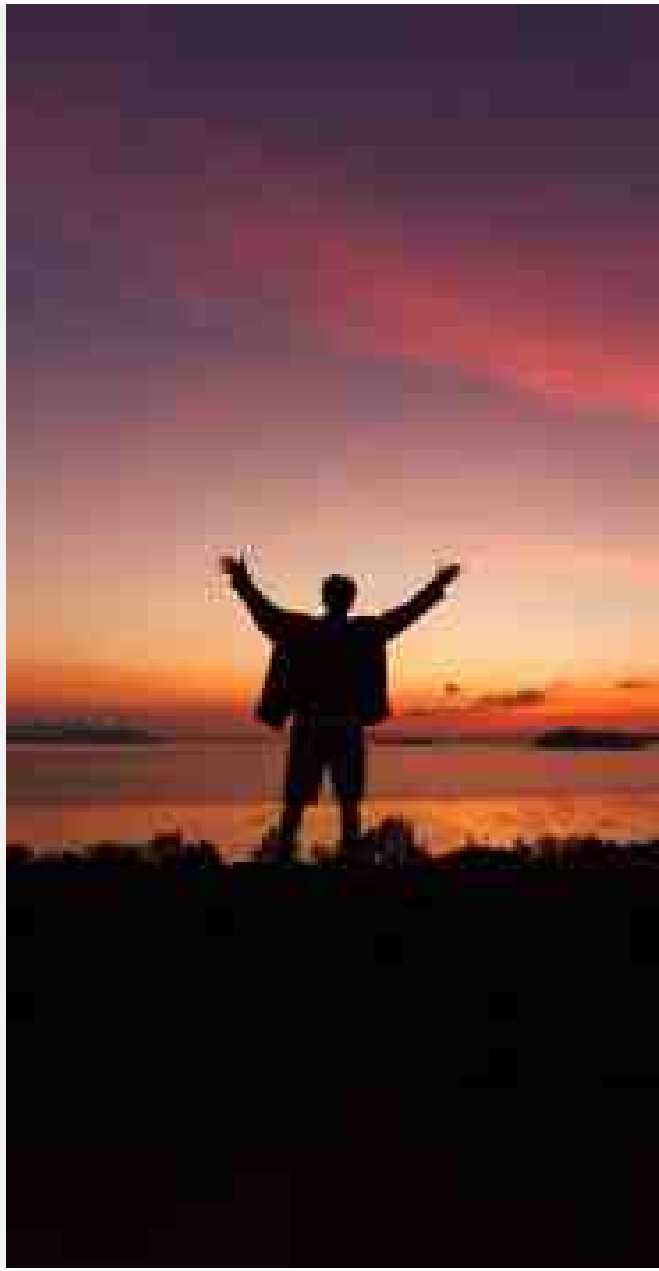
私には、あなたがたに対する大きな確信*があり、あなたがたについて大きな誇り*があります。私は慰めに満たされ、どんな苦難にあっても喜びに満ちあふれています。

＊この根拠は次節から語られる。

➡信仰の確かな証しが、悔い改め。

■祈っていた人が悔い改める姿ほど、
私たちに慰めと喜びを与えることはない。

➡根源的な悔い改めが、信仰告白



## Ⅱ． 信仰者の悲しみと慰め　Ⅱコリント7章5～9節

## 【戦いと恐れ】 Ⅱコリ7:5～6

マケドニア*に着いたとき、私たちの身には全く安らぎがなく、あらゆることで苦しんでいました。外には戦いが、内には恐れがありました。

しかし、気落ちした者を慰めてくださる神は、テトスが来たことで私たちを慰めてくださいました。

＊マケドニア州(ギリシャ北部)のピリポに滞在

■エペソでの大迫害の余波が及んでいた？

## 【テトスの受けた慰め】 II コリ7:7

テトスが来たことだけでなく、彼があなたがたから受けた慰め*によっても、私たちは慰められました。私を慕うあなたがたの思い、あなたがたの深い悲しみ、私に対する熱意*を知らされて、私はますます喜びにあふれました。

＊コリントの残れる者たちと出会ったテトス。

■分派分裂、重大な倫理的罪、パウロへの疑念、反発…。混沌とした中で、現状を深く悲しみ、パウロを慕い、御言葉の正しい解きあかしを求める真の信仰者たちが残されていた。

## 【悔い改め】 Ⅱコリ7:8～9

あの手紙*によってあなたがたを悲しませたとしても、私は後悔していません。あの手紙が一時的にでも、あなたがたを悲しませたことを知っています。それで後悔したとしても、今は喜んでいます。あなたがたが悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めた*からです。あなたがたは神のみこころに添って悲しんだ*ので、私たちから何の害も受けなかったのです。

＊第一と第二の間に書かれた手紙。所在不明。

＊人々の主への悔い改めがパウロの喜び

# Ⅲ.　救いに至る悔い改め　　Ⅱコリント7章10～16節

## 【救いに至る悔い改め】 Ⅱコリ7:10

神のみこころに添った悲しみは、後悔のない、救いに至る悔い改め*を生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします*。

■刑務所では、もっとうまくやればよかったと誰もが後悔している。➡滅びに向かうだけ。

＊主に立ち返り、主に向かって踏み出すこと。
主への罪の悔い改め　➡信仰告白　➡救い

＊自分が可哀想。自己憐憫。被害者意識。
主への悔い改めはない。➡滅び、死。

## 【みこころに添った悲しみの実】 Ⅱコリ7:11

見なさい。神のみこころに添って悲しむこと*、そのことが、あなたがたに、どれほどの熱心*をもたらしたことでしょう。そればかりか、どれほどの弁明、憤り、恐れ、慕う思い、熱意、処罰*をもたらしたことでしょう。あの問題について、あなたがたは、自分たちがすべての点で潔白であることを証明しました。

＊私たち信仰者に主が求めておられること。

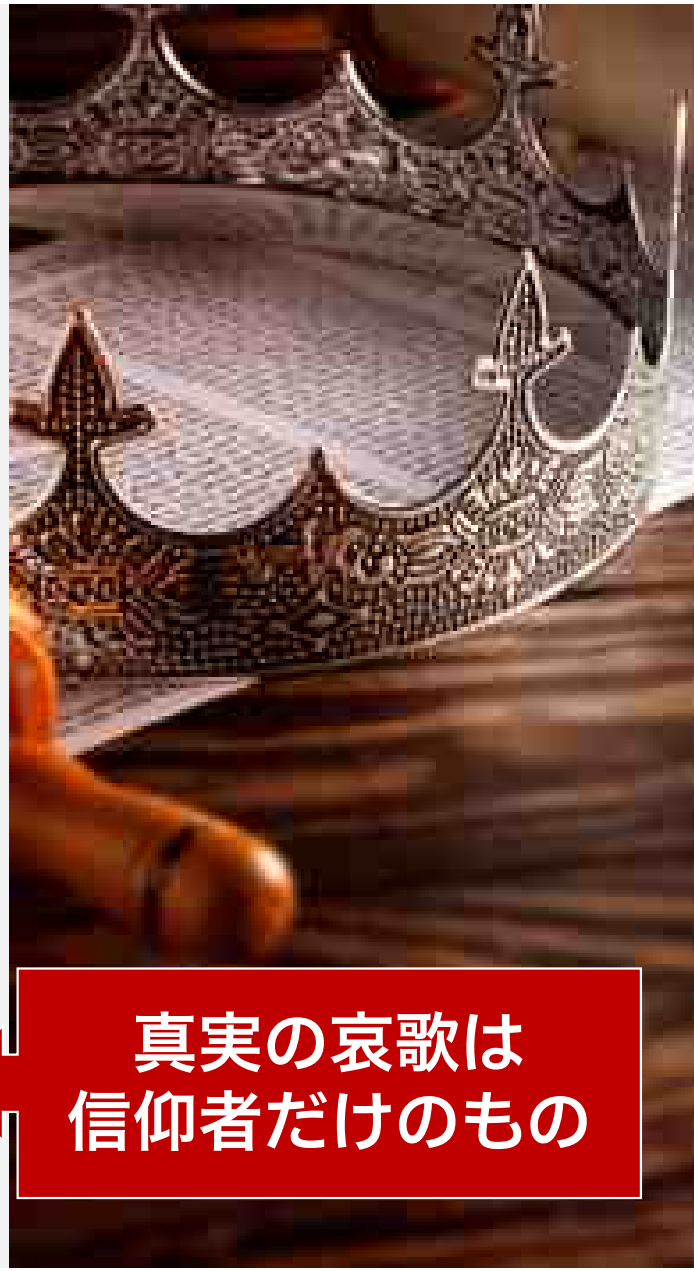
＊主への熱心。御言葉に基づく弁明、神の義にある憤り、恐れ。神の法に基づく処罰。

## 【証明された主への熱心】 Ⅱコリ7:12

ですから、私はあなたがたに手紙を書きましたが、それは不正を行った人のためでも、その被害者のためでもなく、私たちに対するあなたがたの熱心が、あなたがたのために神の御前に明らかにされるためだった*のです。

＊コリント教会の罪を突きつけられ、悲しみ、悔い改めた人々の信仰が明らかにされた。

■試練や苦難、悲しみが、主の目に適う意味を持つのは、悔い改めた信仰者の上にだけ。



## 【テトスの喜び、パウロの喜び】 II コリ7:13

こういうわけで、私たちは慰めを受けました。この慰めの上にテトスの喜びが加わって、私たちはなおいっそう喜びました。テトスの心が、あなたがたすべてによって安らいでいたからです。

■一人の兄弟姉妹が、主の業を証しし、喜ぶ姿が、私たちすべての信仰者の喜び、慰め、励ましとなる。

## 【誇りと真実】 Ⅱコリ7:14

私はテトスに、あなたがたのことを少しばかり誇りました*が、そのことで恥をかかずにすみました。むしろ、私たちがあなたがたに語ったことがすべて真実であったように、テトスの前で誇ったことも真実となったのです。

＊コリントに残された真の信仰者たちのこと。

■偽りや欺き、罪と堕落。霊的戦いのただ中で、真実の信仰者同士が出会わされ、互いに堅く結び合わせられる。

## 【主への恐れに基づく信頼】 Ⅱコリ7:15～16

テトスは、あなたがたがみな従順で、どのように恐れおののきながら自分を迎えてくれたか*を思い起こし、あなたがたへの愛情をますます深めています。

私はすべてのことにおいて、あなたがたに信頼を寄せることができることを喜んでいます。

＊テトスは、主の言葉のメッセンジャーとして主への恐れをもって迎え入れられた。

■確認されたのは、真の信仰者の相互の信頼。

# Ⅳ.　まとめと適用

悲しむべきを悲しもう
聖化の道を日々歩むために

# パウロの手紙の宛先のコリント人とは？

■パウロが意識しているのは、コリントの真の信仰者たち。
悔い改めを拒み、罪にとどまる人に届けられる言葉はない。

■拒み通した人もいた一方で、悲しみ、悔い改める人々がいた。
真摯に兄弟姉妹の罪に向き合い、信仰に基づいて弁明し、
罪に対しては憤り、主を恐れ、主の定めに従い、処罰をも下した。

■困難の中でできることは、主の御言葉に立ち続けることだけ。
真実に生きる者同士を、必ず主が出会わせ、つないでくださる。

# パウロが常に促している聖化の道

■福音を信じた者は、新生し、永遠の命を与えられている。
しかし、そのままでいいとは、聖書のどこにも書かれていない。

■パウロが繰り返し促すのは、きよめられ続けて行くこと。
誰もが自らにつまずき、罪を犯す。求められるのは、悔い改めて、立ち返り、一歩を踏み出し続けること。

■それぞれが、主に与えられた課題に向き合い、とっくみあい続けている限りにおいて、私たちは共に歩んでいくことができる。

# 聖化の道を歩むただ中で確認される私の信仰、私の救い

■救いは永遠。しかし、救いの確信は容易に失われる。
悔い改めを拒み続ける者の、信仰を確認する手段は誰にもない。

■悔い改めによって、私たちの信仰は確認される。
口先だけなら、偽善。真実の悔い改めは必ず行動を伴う。
真実の信仰は、行いによって証しされ、確認される。

■テトスとパウロが喜んだのは、確かな悔い改めを見たから。
聖化とは、罪を犯し、打ち砕かれては悔い改める、その過程。
この道を歩み続けている限りに置いて、私の救いは確認されている。

## ★　体を張ったパウロの姿勢に学ぶこと　★

■とことん打ち砕かれてきたパウロだからこそ、裸で、コリントの兄弟姉妹の前に立ち、罪をも告げることができた。

■罪は罪。だめなものはだめなんだと、体を張ってでも、向き合わなければならない時がある。それが家族の関係だ。主にある兄弟姉妹と呼ぶのなら、避けては通れない道がある。

■家族の罪を指摘するのが怖いのは、裸の自分もさらされるから。自分の欠けを、誰より知る家族の前でこそ試される真実がある。

**悲しむべきを悲しみ、砕かれるべきものを砕かれよう。主の道を歩もう。**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

この救いの確信を、日々深めていくことができますように。

主よ、ただあなたの恵みに信頼して、

突きつけられる罪に、向き合う者としてください。

わたしは、悲しむべきを悲しみ、砕かれるべきを砕かれ、

悔い改めては、立ち返り、聖化の道を歩みます。共にいてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」